

P-5 現代朝鮮語における評価的意味を表す文法形式

くろしま のりふみ
黒島 規史 (熊本学園大学)

norifumi.964ma@gmail.com

要旨

現代朝鮮語における、話し手の肯定的、否定的評価を表す文法形式について研究するための観点を提案するのが目的である。これまで朝鮮語を対象とした評価的意味の研究は、Akatsuka & Sohn (1994) が朝鮮語の -taka(=nun) (-副動. 中断(=主題)) と日本語の「-ては」を否定的評価の観点から考察した以外はあまり見られなかった。しかし、朝鮮語には評価的意味を表す文法形式が多数存在し、これらを研究することは、同じく評価的意味を表す文法形式を多数有する日本語の研究だけでなく、他の言語の研究にも寄与するところがあると考えられる。本稿では (i) 肯定的／否定的、(ii) 形式、(iii) 述語自体の評価的意味、(iv) 否定的評価の意味分類、(v) 主節の評価的意味、(vi) (間)主観性の6つの観点を提案することで、これから朝鮮語の評価的意味を表す文法形式を研究するための足がかりとしたい。

1 はじめに

現代朝鮮語には (以下、朝鮮語と称す)、話し手にとっての利益／不利益、満足／不満足といった評価的な意味を表す形式が存在する。以下の例では、様態副動詞接辞 -key (～ように) と動詞 sayngki- (生じる) から成る迂言的形式が、話者にとって不利益をもたらす状況になったことを意味している。sayngki- は「(お店が) できる」のように用いられたりと、この語自体に否定的な評価性が含まれているわけではない。

(1) cip=to sachay=lo kot nemeka-key sayngky-ess-ko...

家=添加 閻金=沿格 すぐ 渡る-副動. 様態 生じる-過去-副動. 列挙

「家も閻金にもうすぐ渡ることになっちゃったし…」 [Goodbye Solo ep. 12] *

迂言的形式 -key sayngki- が表す、「話し手にとって不利益である」という否定的な意味は、先行研究において semantic prosody (意味的韻律)、desirability (望ましさ)、(感情・) 評価的意味などと呼ばれてきた。本稿では近年日本語の記述的研究でしばしば用いられている「評価的意味」に従うことにする。朝鮮語の研究において、これまで評価的意味を中心に挙げた研究はあまりないようであり、Akatsuka & Sohn (1994) が朝鮮語の -taka(=nun) (-副動. 中断(=主題)) と日本語の「-テハ」を、否定的評価の観点から研究したものが唯一と言ってよかった。しかし、朝鮮語には評価的意味を表す文法形式がいくつも存在し、これらを体系的に研究することは、朝鮮語の記述を深化させるだけでなく、他の言語の研究にも寄与するところが少なくないと考えられる。

そこで、本発表では朝鮮語の評価的意味を研究するに際し、どのような対象を研究すべきであり、さらにどのような観点から分析が可能であるかということを示す。具体的に本発表では、(i) 肯定的／否定的、(ii) 形式 (副動詞接辞、補助動詞、迂言的形式など)、(iii) 述語自体の評価的意味、(iv) 否定的評価の意味分類、(v) 主節の評価的意味、(vi) (間)主観性という6つの観点から朝鮮語の評価的意味を

* ハングルは Yale 式転写によってラテン文字表記する。ただし、両唇音字の後の u/wu の区別はしない。韓国のドラマから例文を引用する際はドラマ名と話数を、「21 세기 세종계획 최종 성과물」(21世紀世宗計画最終成果物) コーパスから引用する場合はファイル番号を示すこととする。

研究する際の指針を提案する。

2 評価的意味に関する先行研究

話し手のなんらかの肯定的、否定的な評価を含んだ意味を、先行研究では semantic prosody (意味的韻律)、desirability (望ましさ)、評価的意味などと呼び、語や文法形式、構文まで研究が行われている。

semantic prosody の研究は英語を対象としたコーパス研究で行われており、主に語彙にかかわる。例えば、Stubbs (1995) は ‘cause’ が problem (問題)、pain (痛み)、disease (病気) など、不快さを表す名詞と共起することが多いことを明らかにしている。他に語彙を対象とした研究として、夏 (2017) は動作主自身に影響が及ぶ動詞 (着る、負う、食う、など) を着点動作主動詞と呼び、このような動詞が「不快な経験をする」という否定的意味を表すようになる意味拡張に注目している。夏 (2017: 170-179) では朝鮮語についても考察を行い、朝鮮語においても着点動作主動詞が否定的意味を表すために用いられることを示している。

文法形式に関する研究は日本語を対象としたものが多く見られ、例えば「そんな N」(鈴木 2006)、「～ときたら」(岩男 2021)、「～わ～わ」「ばかり」「～がち」(大江 2021)、「など」「なんて」等(井戸 2023)がある。どれも否定的評価を対象とした研究で、否定的評価を表すと解釈されるメカニズムを明らかにしている。

朝鮮語を対象とした否定的評価に関する研究について、朝鮮語の補助動詞 -(a/e) peli- (～てしまう) が表す「後悔」「残念」のような感情的意味が、特に評価的意味という観点からではなくとも、たびたび言及されてきた。そのような中、Akatsuka & Sohn (1994) では、否定的条件 (negative conditional) を表す朝鮮語の -taka(=nun) (-副動. 中断(=主題)) と日本語の「-ては」を否定的評価態度 (negative evaluative attitude) の観点から分析し、望ましくない文 S1 が、望ましくない文 S2 を導くという主張をしている。

- (2) S1 cam=man ca-taka(=nun) S2 nakceyha-keyss-ta. / S2 * na-aci-keyss-ta.
眠り=限定 寝る-副動. 中断(=主題) 落第する-蓋然性-直説法 ましだ-自動-蓋然性-直説法
[undesirable] [undesirable] [*desirable]

“If you only sleep, you’ll flunk the exam / you’ll feel better” (Akatsuka & Sohn 1994: 204; 形態素境界の区切りを変更し、グロスを追加して引用する)

Akatsuka & Sohn (1994) のような研究はあったものの、朝鮮語における評価的意味を表す文法形式の研究はいまだ緒についておらず、明らかになっていない点も多い。以下では、今度評価的意味を研究するにあたって、どのような研究が可能であり、またどのように研究していくべきであるかの提案をする。

3 評価的意味を表す形式を分析するための6つの観点

本発表では (i) 肯定的／否定的、(ii) 形式 (副動詞接辞、補助動詞、迂言的形式など)、(iii) 述語自体の評価的意味、(iv) 否定的評価の意味分類、(v) 主節の評価的意味、(vi) (間)主観性の6つの観点から朝鮮語の評価的意味を表す文法形式が研究可能であることを提示する。

3.1 肯定的か否定的か

評価の意味といっても、肯定的な評価と否定的な評価が均等に表されるわけではなく、否定的評価に著しく偏っている。提 (2022: 177) は日本語の肯定的評価を表すものには「これこれ」を見つけているのみで、肯定的評価を表す形式は否定的評価を表す形式より少ないようだと言っている。この指摘通り、朝鮮語の場合も否定的評価を表す形式が多い。

否定的評価を表す形式については次節で例示するが、肯定的評価を表す形式としては **-keyss-ta** (-蓋然性-直説法) を反復させることにより、「望ましい X もあるし、望ましい Y もあるし」という意味を表す例か、反復ではなく **-(a/e)ss-keyss-ta** (-過去-蓋然性-直説法) で「望ましい X もあるし」という意味を表す例を見つけることができた。前者の例を挙げる。

- (3) ce sensayngnim=un myenggyey=to **iss-keyss-ta** ton=to **iss-keyss-ta**
あの先生=主題 名誉=添加 ある-蓋然性-直説法 お金=添加 ある-蓋然性-直説法
talu-n salam pwulew-ul key hana=to
異なる-連体. 完状人 うらやましい-連体. 非現実 こと:主格 一つ=添加
eps-ul ke=ya.
ない-推量=繫辞:直説法. 非丁寧
「あの先生は、名誉はある、お金はある、他人をうらやむことなどないだろう。」
(全恵子 2017: 41)

Nam (2018) では朝鮮語の補助動詞 **-(a/e) naka-** (～ていく; **naka-** は「出ていく」を意味する) と結合する用言は、「創造、改善、発展」など肯定的な意味を持つものが多く、否定的な意味を表す用言と結合しにくいことを指摘している。

- (4) simsin=i cichy-e iss-nun twu yeca=nun nal=lo casin=tul=ul
心身=主格 疲れる-副動 状態-連体. 未完現 2つの女=主題 日=副詞化 自身=複数=対格
hoypok=sikhy-e **naka-ss-ta**.
回復=使役-副動 遠心-過去-直説法
「心身ともに疲れている 2人の女は、日ごとに自分たちを回復させていった。」 [CE000024]

この Nam (2018) の指摘が正しければ、補助動詞 **-(a/e) naka-** は肯定的評価に用いられやすい、あるいは少なくとも否定的評価を表す際には用いられにくいということが言えそうだが、実際は否定的な意味を表す述語とも結合するため、この点に関してはさらに調査が必要である。

3.2 どのような形式で表されるか

朝鮮語において、どのような形式によって否定的評価が表されるのかを整理する。前節で挙げたように、朝鮮語において肯定的評価を表す文法形式は 2 つほどしか見つかっていない。一つは蓋然性を表す接辞 **-keyss-** を含む構文と、もう一つが補助動詞 **-(a/e) naka-** であった。これとは逆に、否定的評価を表す形式はいくつか考えられる。次表は否定的評価を表す形式と、その形式の分類である。

表1 朝鮮語において否定的評価を表す形式の分類

形式	朝鮮語の例
連体詞	ittan (こんな)、kuttan (そんな)、cettan (あんな)
補助動詞	-(a/e) peli- (～てしまう)、-ko anc- (～やがる)、-(a/e) ppaci- [強意]
補助動詞 + 副動詞接辞	-(a/e) pw-ass-ca (～たところで)、-(a/e) noh-ko (～ておいて)、 -(a/e) nwase (～なので)
副動詞接辞	-myense (～くせに)、-nula(ko) (～ようと)、-key [非難] (主節用法)
副動詞接辞 + とりたて助詞	-taka(=nun) (～ていると)、[Adj.] + -key=to (～にも)
文末形式	-lla (～するぞ [警告])
迂言的形式	-key sayngki- (～ことになる)、-l cikyeng=i- (～ほどだ)、 -ki swip- (～がちだ)、[Adj.] -ci mosha- ((期待ほど) ～でない)、 -lkkapwa (～かと思って)、[連体形] nal=ey=nun (～た日には)

表??に挙げた形式がいつでも否定的評価を表すというわけではない。迂言的形式のうちの一つ -ki swip- (-名詞化 簡単だ-) は意志的な動詞に続く場合は、ある動作を行うことがたやすい (～やすい) という意味を表し、非意志的な動詞に続く場合は、ある事態が起こる可能性が高い、そのような傾向にある (～がちだ) という意味を表す。

- (5) yenil kyeysoctoy-nun phokyem=ey mom=to maum=to cichi-**ki** **swiw-un**
 連日 続く-連体. 未完現 猛暑=与位格 体=添加 心=添加 疲れる-名詞化 簡単だ-連体. 完状
 yocum=i-pnita.
 この頃=繫辞-直説法. 丁寧
 「連日続く猛暑で、心も体も疲れがちなの頃です。」 [気象庁の人々 ep. 11]

その他、文副詞として用いられる [Adj.] + -keyto (～にも) は, isangha- (変だ、奇妙だ) や engttwungha- (突飛だ) など、否定的な意味を持つ形容詞と結合することが多いものの、nollap- (驚くべきことだ) など、特に否定的な意味を持たない形容詞と結合することも多い (An 2010、黒島 2020)。そのため、あくまで否定的な意味で用いられやすいという傾向を示すのみであると考えべきである。

3.3 否定的評価の意味分類

否定的評価といってもその内実は様々であり、ここではいくつか意味分類を試みる。

否定的評価のうちでも、話し手にとって不利益となることを表す例は、(??) で挙げた -key sayngki- (～ことになる) や次の -l cikyeng=i- (～ほどだ) がある。cikyeng [漢字語：地境] は修飾語を伴い形式名詞的に用いられる場合は、「話し手にとって不利益な状況がVするほどだ」という意味を表す。

- (6) aph-ase cwuk-**ul** **cikyeng=iya** cikum.
 痛い-副動. 原因 死ぬ-連体. 非現実 状況=繫辞-直説法. 非丁寧 今
 「痛くて死にそうだよ今。」 [Wedding ep. 11]

話し手の否定的評価を表す文法形式のうちでも、話し手が無駄だと、諦めを表す場合もある。-(a/e)

pw-ass-ca (～たところで) は日本語の「～ところで」と同様に主節述語にも「意味がない、どうにもならない」のような否定的評価を表す述語が用いられる。

- (7) yaykihay **pw-ass-ca** ihay mos ha-l key ppenha-nikka.
話す:副動 みる-過去-副動. 確条 理解 不可能 する-連体. 非現実 こと:主格 明らかだ-副動. 理由
「話したところで理解できないにきまつてるから。」[青春日記 ep. 3]

また、否定的評価のうちでも、話し手の期待する基準に達しない不満足さを表す文法形式も存在する。「よい」のような肯定的形容詞に続く場合の -ci mosha- がその例で、-ci mosha- は動詞に続く場合は不可能を表す。

- (8) kutongan aysse cwu-sy-ess-nuntey kyelkwa=ka coh-**ci** moshay-se
この間 努力する:副動 受益-尊敬-過去-副動. 逆接 結果=主格 よい-名詞化 不可能-副動. 理由
coysongha-ney=yo.
申し訳ない-感嘆=丁寧
「この間努力してくださったのに、結果が満足のいくものでなくて申し訳ないですね。」
[スタートアップ ep. 5]

最後に、話し手の否定的評価を表す文法形式のなかでも、聞き手に対して望ましくない評価を下し、聞き手を非難する場面でよく用いられるものがある。-(a/e) noh-ko は補助動詞 -(a/e) noh- (～ておく) と継起副動詞接辞 -ko (～て) から成り、日本語の「～ておいて」のように話し手の期待や予測が裏切られたことを非難する意味で用いられる。

- (9) eceyspam=ey=to mwul-**e** noh-ko tto mwut-ni?
昨晩=与位格=添加 尋ねる-副動 完遂-副動. 継起 また 尋ねる-疑問
「昨日の晩にも聞いておいて、また聞くの？」[39歳 ep. 1]

補助動詞 -(a/e) noh- (～ておく) 自体は動作の完遂を表す。このような客観的な意味を表す形式が、-(a/e) noh-ko となると、話し手の主観的な評価を表すようになり、さらに -(a/e) noh-ko は主に聞き手目当てで用いられることから間主観性とも関わりと考えられる。主観性、間主観性との関連については??節で再度述べる。

3.4 述語の評価的意味

(??) で例を挙げた [Adj.] -ci mosha- は肯定的形容詞と結合するということを述べた。このように結合する述語自体の評価的意味が、ある程度肯定的な意味か否定的な意味に偏っている場合がある。

-(a/e) nwase (～なので) は補助動詞 -(a/e) noh- (～ておく) に継起・原因の副動詞接辞 -(a/e)se が続いて成る。主に非意志的な動詞や形容詞、コンピュータに続き、理由を表す。この意味で用いられる場合は、補助動詞 -(a/e) noh- は縮約形の -(a/e) nwa- で現れる。-(a/e) nwase が続く述語は、基本的に述語自体の意味が否定的評価に偏っている。

- (10) talk kasum#sal=i-ntey=yo… ikey wenak phekphekhay **nwase**
鶏 胸#肉=繫辞-副動. 前提=丁寧 これ:主格 なにしろ パサパサしている:副動 おく:副動. 原因
sonnim=tul=i ta kipi=lul ha-ketun=yo kulayse…
お客=複数=主格 みんな 忌避=対格 する-説明=丁寧 それで

「鶏の胸肉なんです、これがなにしろパサパサしているのでお客さんがみんな食べたがらないんですよ、なので…」 [CJ000234]

節全体で否定的評価を表しているといっても、述語が必ずしも否定的評価を表しているとは言えない場合もあるため、述語自体の評価的意味を区別しておくべきである。

否定的評価を表す文法形式の場合は、その述語は肯定的、否定的意味のどちらのこともある。肯定的意味を表す文法形式(??)、(??)は、肯定的な述語としか結合しないように見えるが、数が少ないためはっきりしたことは言えない。

3.5 主節の評価的意味

副詞節に続く主節が否定的な意味に偏る場合がある。すでに例を挙げた -taka(=nun) (??) や -(a/e) pw-ass-ca (??) は主節も否定的評価を表す。

さらに例を挙げると、原因・目的の副動詞接辞 -nula(ko) は、主に原因に解釈されるとき、苦痛や疲労感を表す述語が用いられやすい (五十嵐 1998: 10)。

- (11) pamsaym kunmwu ha-nulako himtul-ess-ci?
徹夜 勤務 する-副動. 原因 大変だ--過去-確言
「徹夜勤務して大変だったでしょう？」 [気象庁の人々 ep. 5]

このように、接続形式の場合は主節の評価的意味も考慮する必要がある。

3.6 (問)主観性

評価的意味の研究は、これまでどちらかというと文法化研究の一環として主観化の例として扱われることが多かったようである。その代表的な例が日本語の「-てしまう」、朝鮮語の -(a/e) peli- であり、両者は「残念」などの話し手の否定的な感情を表す表現として研究されてきた (一色 2011、Cho 2013)。

すでに (??) で例を挙げたように、-(a/e) noh-ko (～ておいて) は聞き手への非難を含み、より聞き手目当ての表現として用いられる。意味が、話し手の態度や信念をコード化するようになり、さらにそれが話し手目当てになる現象は Traugott (2010) の言う「問主観化」の例であると考えられる。-(a/e) noh-ko の他にも聞き手目当てで非難に使われるのが副動詞接辞 -myense (～くせに) である。この副動詞接辞は日本語の「-ながら」のように同時的事態も表すが、特に否定やテンス形式を含むときは逆接的に用いられ、聞き手目当てでは「～くせに」という非難を表す。

- (12) kuleh-key manh-i ilk-ess-umyense nayyong=ul molla?
そうだ-副動. 様態 多い-副詞化 読む-過去-副動. 逆接 内容=対格 知らない:疑問. 非丁寧
「そんなにたくさん読んだくせに内容を知らない？」 [青春日記 ep. 5]

非難を表す文法的手段については、他にも副詞節が主節として用いられる場合にも観察される (黒島 2020)。さらに、聞き手目当てで用いられる文法形式には、非難以外にも否定的な状況になるであろうことを警告するものもあり、文末形式の -lla (～するぞ) が該当する。

4 おわりに

本稿では、朝鮮語における評価的意味を表す文法形式を研究するための6つの観点を提案した。評価的意味に着目し朝鮮語を分析することで、これまで研究対象になることがあまりなかった *-l cikyeng=i* (??) なども研究の俎上に載せることができる。日本語と同様、朝鮮語は語彙のみならず、文法的形式においても評価的意味を比較的好く表す言語であるということが言えそうである。今後、朝鮮語における評価的意味の研究が進展するだけでなく、他の言語との対照研究も進展することが期待される。

しかし、本稿に残る問題は多い。朝鮮語における評価的意味を表す文法形式は、本稿で挙げたものだけではないだろうし、今度さらに目録を充実させる必要がある。さらに、主観性の文脈で論じられてきた現象と、評価的意味がどのように関わるかも詳しく論じるべきである。本稿では触れられなかったが、否定的評価を表す場合、その事態は望まれない事態であり、大抵は非意志的な事態であると考えられる。そうであれば、意志性との関連についても考察せねばならない。全て今後の課題である。

略号 (省略したものと記号のみ)

確条 確定条件 | 完状 完了状態 | 自動 自動詞化 | 副動 副動詞接辞 | 未完現 未完了現在 | 連体 連体接辞
- 接辞境界 | = 接語境界 | # 複合語境界 | : 形態素境界非表示

引用文献

- Akatsuka, Noriko and Sohn Sung-Ock S. (1994) Negative conditionality: The case of Japanese *-tewa* and Korean *-taka*. In Noriko Akatsuka (ed.) *Japanese/Korean Linguistics 4*: 203-219. Stanford: CSLI.
- Stubbs, Michael (1995) Collocations and semantic profiles: On the cause of the trouble with quantitative studies. *Functions of Languages 2*: 1-33.
- Traugott, Elizabeth Closs (2010) (Inter)subjectivity and (Inter)subjectification: A Reassessment. In: Kristin Davidse, Lieven Vandelandotte, and Hubert Cuyckens (eds.) *Subjectification, Intersubjectification and Grammaticalization*. 29-71. Berlin & New York: Mouton de Gruyter.
- 五十嵐孔一 (1998) 「現代朝鮮語の用言接続形<-니라 (고)>について —— 「タクシス」と「図と地」の観点から ——」『朝鮮学報』169: 1-52.
- 一色舞子 (2011) 「日本語の補助動詞「-てしまう」の文法化 —主観化、間主観化を中心に—」『日本研究』15: 201-221.
- 井戸美里 (2023) 『現代日本語における否定的評価を表すとりたて詞の研究』東京：くろしお出版。
- 岩男孝哲 (2021) 「名詞に対する評価的意味はどのように生じるのか — 「評価的」意味研究の更なる発展に向けて —」『名詞研究のこれまでとこれから』106-125. 東京：くろしお出版。
- 大江元貴 (2021) 「反復的観察と評価的意味」『第163回 日本言語学会大会予稿集』304-309.
- 夏海燕 (2017) 『動詞の意味拡張における方向性 —着点動作主動詞の認知言語学的研究』東京：ひつじ書房。
- 黒島規史 (2020) 『定形性の観点から見た現代朝鮮語の副詞節』東京外国語大学博士学位論文。
- 鈴木智美 (2006) 「「そんな X…」文に見られる感情・評価的意味 —話者がとらえる事態の価値・意味と非予測性—」『日本語文法』6(1): 88-105. 東京：くろしお出版。
- 全恵子 (2017) 『現代韓国語の先語末語尾 -겠- の研究 —その機能と多義構造—』東京大学博士学位論文。
- 堤良一 (2022) 「日本語文法学界の展望 (2018~2020) 現代語」『日本語文法』22(1): 171-179. 東京：くろしお出版。
- 남신혜 [Nam Sin-hye] (2018) ‘보조용언 ‘나가다’ 의 의미와 통사’, “한국어 의미학” 60: 71-92.
- 안정아 [An, Jeong-a] (2010) “형용사 + -게도” 형의 양태성 고찰’, “한국어학” 46: 229-251.
- 조미희 [Cho, Mi-hee] (2013) ‘국어 보조동사의 의미의 주관화: ‘-어 놓다, -어 두다’, ‘-어 버리다, -어 치우다’ 쌍을 중심으로’, “형태론” 15(1): 35-54. 서울: 박의정.